

# 『新修鷹経諺解』の翻刻と解題

秋吉正博

The Study and Reprint of Shinshū-yōkyō- genkai (新修鷹経諺解)  
AKIYOSHI, Masahiro

## 一、解題

本稿では、国立公文書館内閣文庫所蔵『新修鷹経諺解』を翻刻して若干の解説を試みたい。

『新修鷹経諺解』の体裁は全一冊、袋綴、墨付き九十五丁である。茶色地の表表紙・裏表紙を付け、表表紙に題箋を貼付して外題「新修鷹経諺解」を墨書する。奥書に享保三年戊戌九月日の日付を有しており、林七三郎信充と林百助信智が名前を連ねる。奥書の日付からみれば、両名が江戸時代中期に『新修鷹経』を和語で解釈した者であると分かる。現存本は字の線の細さや、半丁五行で一行あたり十六字を基準とする本文の割付などからみて、写本として作成されたものであろうか。本文は漢字・片仮名交じりの文体で書かれ、振り仮名のふられた漢字も多い。見出しは漢文体のまま、返り点をつけている。一丁表には、「大学蔵書」、「浅草文庫」、「日本政府図書」の印が捺されており、明治初期以来、大学(文部省の前身)、浅草文庫、内閣文庫に伝来した履歴が窺える。遡って江戸後期には林氏か、昌平黌・昌平坂学問所の所蔵であったとみられるが、それを示す印は捺されていない。また、同題の他の写本は知られていない。

『新修鷹経諺解』の類本としては、同じ国立公文書館内閣文庫所蔵の『新修鷹経和解』がある。『新修鷹経和解』の原本は林信如によって作成された

ものであるが、現存本はその本文からみると、明らかに写本である。巻末の「文政庚寅」の印から文政十三年に昌平坂学問所に収蔵されたとみなされ、同じ頃に書写されたものであり、進献本の方は早くに失われたのだろうと考えられている<sup>1)</sup>。同題の稿本や他の写本は見当たらないが、実は、『新修鷹経和解』の和解の部分は『新修鷹経諺解』の本文と類似しており、そのことに注意を払う必要がある。

『新修鷹経和解』が『新修鷹経諺解』の成立と密接なつながりを有することは察せられるので、まず『新修鷹経和解』の成立事情をみておきたい。『新修鷹経和解』の成立事情を示す史料として注目されてきたのは、『徳川実紀』の記事である。『徳川実紀』有徳院殿御実紀卷六、享保三年五月十八日条には、

○十八日御座所にて林又右衛門信如中庸を進講す。講はて、鷹経の和解を命ぜらる。(家譜)

とあり、江戸幕府第八代将軍徳川吉宗(有徳院)の御座所において、林又右衛門信如が中庸を進講した後、吉宗から「鷹経の和解」を命じられたという。

『新修鷹経和解』著者の林信如は、『寛政重修諸家譜』巻第七百四十一の林氏(藤原氏利仁流)の家譜<sup>3)</sup>に見える。幕府儒官林靖(林守勝、号読耕斎・春徳)の継嗣勝澄(号春東)が早世したため、その養子となった人物であ

り、実は高麗春沢長好の二男である。通称は又右衛門、字は春益を称し、葛盧と号す。『新修鷹経諺解』著者の林信充と信智兄弟は、林靖の兄、春勝（号鶯峯・春翁）の子信篤の子息たちであるから、信如とは又従兄弟の関係にあった。信如は、第五代將軍綱吉の近習等を勤めて儒者となり、第八代吉宗の時代には、

享保三年五月十八日有徳院殿の御前にをいて中庸を講ず。この日鷹経の和解のことならびに聖堂にをいて書を講ずべきむね台命を蒙る。

とあるように、御前で進講を行っていた。中庸の進講を行なった享保三年五月十八日に「鷹経の和解のこと」と湯島聖堂での講書を命じられたという。『寛政重修諸家譜』の家譜の記事は恐らく、『徳川実紀』の記事と同じ家譜を参照したものであろう。

林信如が信充・信智と同族であること、『新修鷹経和解』の和解の部分と『新修鷹経諺解』の諺解の表現が類似していること、享保三年五月十八日に吉宗から「鷹経の和解」を命じられ、同年九月に『新修鷹経諺解』が成立したことなどを併せて考えると、次のような経緯が想定できる。

五月十八日、吉宗から『新修鷹経』の和解を行なうようにとの台命を受けた林信如が、すぐに親族である林信充・信智の兄弟に相談した。林信充と信智は『新修鷹経』の和解を引き受けて、試みることに数ヶ月、ようやく九月に完成する。このとき林信充と信智によって作成されたものが、『新修鷹経諺解』ではなからうか。報せを受けた林信如は、二人から『新修鷹経諺解』を受け取る。今度は、林信如が二人の『新修鷹経諺解』を参照して『新修鷹経和解』を作成すると、徳川吉宗の御前に提出するに至った、というものである。

『新修鷹経和解』の成立の経緯が『新修鷹経諺解』の成立を解く鍵であると考えたが、ここで『新修鷹経諺解』著者の林七三郎信充と百助信智の兄弟についても触れておきたい。二人の系譜は先に触れたが、『寛政重修諸家譜』の林氏の家譜によると、大学頭林信篤（号風岡・春常）の男子である。老衰で弱っていた父信篤の代わりを勤め、將軍への進講を父子三名交替で

行なったという。兄の七三郎信充（号榴岡）は享保八年に大学頭となって家督を襲い、弟の百助信智（号確軒）は父・兄をよく助けた。兄弟は代々の將軍の命を受けて進講を行なうほか、『武家補任』、『御撰大坂記』、『御書籍目録』など幕府編纂物の編纂・校正事業に従事したことが知られている。<sup>14</sup>

江戸幕府將軍の綱吉・家宣・吉宗はしばしば昌平黌の儒者に漢籍の進講を命じたが、特に吉宗は学問を好むだけでなく、乗馬・放鷹・狩猟に對する関心も高かった。吉宗はそれらに関する書物を収集させたり、和語に解釈させたりした。その一環として、放鷹についての漢文体の古い書物として知られていた『新修鷹経』に深い関心を寄せたであろうことは想像にかたくない。

『新修鷹経』は原本が知られず、中世後期から近世までのいくつかの写本が伝わるのみである。『新修鷹経』は漢文体で書かれており、書写した人々によって和解が試みられたようであるが、写本の間で散見する多くの異同を見る限り、彼らにもよく理解できなかったように思われる。中世にはその読み方、解釈自体が秘中の秘とされ、放鷹・養鷹を学ぶ師弟の間で伝えられた。その状況は、『蒙求臂鷹往来』という往来物に仮託した室町後期の鷹書に見えている。『新修鷹経』の和語による解釈は、それだけ難しい試みであったのかもしれない。江戸中期の林信充・信智の『新修鷹経諺解』は、当該期の『新修鷹経』の読み方の一例を知る史料として貴重である。

以上のことから、『新修鷹経諺解』の著述は、吉宗の命を蒙った林信如からの依頼を引き受けた、林信充・信智の兄弟によって試みられたものであり、『新修鷹経諺解』をもとに林信如の『新修鷹経和解』が成立したと考えられないだろうか。もしそのような経緯を推定することがゆるされるなら、林氏の間で助け合って、各種の文献・書物の内容の解釈を試みていたことになる。幕府の学問振興・各種編纂事業に取り組んでいた昌平黌の組織的な推進を下支えした林氏内部の協力関係の一端が窺えるだろう。

【注】

- (1) 福井保『江戸幕府編纂物 解説編』（雄松堂出版、昭和五十八年）一七〇～七一頁。
- (2) 『徳川実紀』第五篇（統国史大系第十三巻、経済雑誌社、明治三十七年）、有徳院殿御実紀巻六、享保三年五月十八日条。
- (3) 『新訂 寛政重修諸家譜』第十二（統群書類従完成会、昭和四〇年）、巻第七百四十一、林（藤原氏利仁流）。
- (4) 福井保『江戸幕府編纂物 解説編』一四九～一五七頁、二三七～二四〇頁。なお、福井保『江戸幕府編纂物 図録編』（雄松堂出版、昭和五十八年）の図版九六「武家補任（稿本）林信充等跋」を手掛かりに、『武家補任』（全三冊、請求番号一五一〇三二三）第三冊の奥書を確認すると、「林七三郎信充」「林百助信智」の字体は、『新修鷹経諺解』の奥書と酷似している。

二、翻刻

《凡例》

- ・国立公文書館内閣文庫所蔵『新修鷹経諺解』を翻刻する。請求番号一五四一〇三〇三。
- ・原本は全一冊、袋綴、縦三〇・〇糎、横二一・三糎である。墨付き九五丁であり、遊紙はない。
- ・表表紙と裏表紙がある。表表紙に貼付された外題題箋には「新修鷹経諺解」と墨書されている。
- ・一丁表には、「大学蔵書」、「浅草文庫」、「日本政府図書」の印が捺されている。
- ・丁は一丁表、一丁裏と数え、(一オ)、(二ウ)と表記した。半丁の区切りは鍵括弧で示して末尾に「(一オ)」と付けた。墨付き無しの白紙の半丁は「白紙」(二オ)などと表記した。
- ・翻刻本文の割付は原本通りではなく、煩雑になるため改行箇所は示していない。原本の割付は半丁五行で、一行あたりの字数は十六字を基準と

しているが、厳密な形にはなっていない。

- ・割注の二行書きは、「」で括って一行書きとした。但し、見出しの下の説明は一行書きと二行書きを併用しているため、ポイントを下げて一行書きで統一した。
- ・句点は適宜振ったが、読点は振らなかった。
- ・片仮名は旧仮名遣いを用いた。「エ」と「エ」の使い分けに疑問もあるが、なるべく原文のままとした。
- ・濁濁は原文に拠った。濁点の付け方に疑問のある箇所も多いが、原文のままとした。

- ・「子」、「井」の表記は文意に従ってそれぞれ現行の片仮名表記の「ネ」、「キ」に改めた。
- ・特殊な合字は現行の片仮名表記に改めた。

- ・平仮名の「く」に見える文字で、二文字分か三文字分の繰り返しを示した畳字である場合は、「く」の倍角とした。振り仮名の畳字に使われている場合は、便宜的に平仮名の「く」を用いた。
- ・漢字一文字の畳字は「々」を用いたが、「年々」(年々の意)と書かれた箇所は原文のままとした。

- ・片仮名の畳字は「ゝ」、「ゞ」で表記した。
- ・旧漢字は出来る限り現行書体に改めた。「鹽」「絲」など一部で原文のままとした漢字もある。
- ・異体字はその正字に最も近い現行書体に改めた。
- ・ハイタカを示す漢字の字体は二種類見られるが、「鶴」の字に統一した。

《翻刻本文》

- (表表紙 外題題箋)
- 「新修鷹経諺解」

(以下本文。一オに「大学蔵書」、「浅草文庫」、「日本政府図書」の印あり。)  
新修鷹経序

序ハ緒トヲナシコ、ロニテ書ノ大意ヲ糸ノ如ク云ヒノヘタル体ノ文ヲ序ト云フナリ。

夫タカハ俊逸ノ鳥ニテ瑤光星ノ精氣(一オ)ヲウケテ鐘岱トイヘルニツノ高山ノ巢ノ中ニ生ス。驍才シゼンニソナハリサカンナル姿世ニ遙ニスグレ越タリ。春ハ化テ鳩トナルハ仁ナリ。秋ニイタリテ殺伐ノ戮ヲ行ハ義ナリ。食スル時(一ウ)ニ先祖ヲワスレザルハ敬ナリ。攫搏強ヲモオソレサケザルハ勇ナリ。動ク時ニ遠ケレトモ見ズト云フコトナク物形アレハコトノ見ルハ智ナリ。君子タル人ノモテアソヒタノシミトナリ庖(二オ)厨膳具ノ肉ヲタスク。一物ニシテ如レ此多クノ美德ヲカネタリ。類ヲ羽ネアルモノニ同フストイヘトモマコトニ智恵殊ニシテ群類ヲヌキンデタリ。故ニ前ニハ孫子荆忠義勇猛ノ人ニタトヘ(二ウ)後ニハ僧支遁神妙ニスグレタルコトヲ称ス。僕勤ノイトマゴトニ翫ヒ好ムコトヲラス指南ニシタガヒテキニ応ジ馴擾ニマカセテ力ヲイタスコトヲアイス。魯ノ君ノ鶴ノタバニ五穀ヲ(三オ)ツイヤシ衛ノ君ノ鶴軒ニノルニ同ジカラズ。モシクハ寿夭ト快精ハ目利シテ相スル法調養ヒ療治スルノ法術ナキニアラス。古今ノヨロシキヲ斟酌類ニ隨テ明ニワカツ。ヲソラクハ此書ヲ(三ウ)見ル人イマタ詳ナラザランコトヲ。カサネテシメスニ図以テシキザンテ三卷トナシ名テ新修鷹経ト云フ。此コト至細ナリトイヘトモ以テ大ナル道ヲモサトルベシ。此後ノ人以テ此レヲ見(四オ)ヨト云フ。(四ウ)

新修鷹経

此書ハ鷹ノ事ヲカキシルシ新ニアミヲサムル意ナリ。

形相 鷹ノスカタヲ云フ。

相ハ鷹ノ本性ノアラハル、トコロカ(五オ)タチ骨髓ヲ平ニシヨシアシキノ道モ氣ト貌ニアラハル、ナリ。後魏ノ献文帝モ人ト鳥トワザハ各別ナレトモモノシルコトモ本性モ同シ事ナリトイヘリ。晋ノ孫楚ガ鷹ノ賦ニハ專

ラカタチ(五ウ)ヲホメ後周ノ魏収カ鷹ノ経ニハ專ラテイ様子ヲイ、ノベタリ。シカシナガラ鷹ノスカタカタチハアシケレトモ心ノサトキモアリ。心ハアシケレトモ形バカリハヨキモアリ。タトヘテイハ(六オ)口ニイフトコロノ言葉ハヨケレトモ身ニ行フニ不足ナルハ宰予ノゴトキ人モアリ。形ハアラシク見ユレトモ性ノタ、シキコトハ子羽ノ如キ人モアレバ此ノ理ハ至テフカキコトニシテ(六ウ)チエ推量ノ及フトコロニアラス。大概鷹ノ諸法ヲノベテ左ノカキツラネシト云フ意ナリ。

相鷹大体法 鷹ノ善惡ヲ目利スル大体ナリ。

スベテヨキ鷹ハカタチタクマシク大(七オ)キナルガヨシ。大キナルハ諸鳥ヲシノグ威セイアリ。小サキハカヘツテ諸鳥ニシノガル、ガ故也。其ノカタチ遠クヨリ見レバ毛フカク多キ様ニテ近ツキテ見レバ毛アサクスクナキ様ニテ(七ウ)カヘツテ骨肉ツキハ多ナリ。前ハ胸腹バカリノ様ニテハネツバサハナキ様ニ見ヘソリカヘリアフノキアガル如クナリ。ウシロハハネツバサニテ惣身ヲツ、ミタル様ニテウツフキヲホヘ(八オ)ルガ如ク見ユルナリ。ホコニツナギトハウ時タカタヌキニホリテトパウ時ハトバイ上ヘムカフヲヨシトス。下ヘムカヘバ肩ニテカシラヤスルハヨキ鷹トハイハズ。スベテアシキ鷹ノ(八ウ)形ハカシラ小キニシテトガリヒトミ小サクアラハル。溝穴目ノウシロクビノ方ニ近ツキテアリ。鼻ノアナスボフシテナクコエモウルハシカラズ。髯ハ小サクシテ上ヘアフギクビホソクシテタ(九オ)ハミマカレルハリノ如シ。一ノ翼ブシ骨小ク短クシテマガレリ。是ヲ鈍羽トイフ。腋羽ハヨコリイテ覆羽ハミダリヨコリイテ腰ハホソクシテヨハク尾ハ本ホソク末ヒロクモ、ハミヂカクハギ(九ウ)ハホソク長ク両ノヒヂウスタ両ノ足アヒハナレタル類一色モアレバ是ヲアシキ鷹ト云フナリ。

スベテ鷹ノクビアフノキタイハウツフキ腰ハタル。タルレトモヨハキニハ(一〇オ)アラズ。是ヲ三段鷹ト云フ。又其タイカブラネノ如クウヘシタノ毛モ羽モキレルガコトクナルヲカブラ鷹ト云フ。カ様ノ類ハ鳥近クタツトキハトレトモ遠ク鳥ヲ逐フコトナリガタシ。又モ(一〇ウ)、ハギ共ニミ

チカクヒチホネカバマリマガリテコシツヨキハ是ヲカモキ鷹ト云フ。古人ハヨシトスレトモ今ハヨロシカラズトスルナリ。」(一一オ)

(白紙) (一一ウ)

相別体法 鷹ノ惣体ヲ一ツ(別ニワケテ相スルナリ)。

スベテ鷹ノクビハ大ニシテミダリニウゴカサルカヨシ。

イタゞキハタヒラカニ中ダカニシテ口ヲトガヒ共ニ大キナルガヨシ。スエタ」(一二オ) ル時ツナギタル時頭モチ正ク直クシテホコタカダスキト正面ニ当ル。カヤウノ類ハコ、ロヨクタケキ心アルナリ。

目ハハシノ方ヲハナレ後ニチカヨリ目ノ浅サ深サ大サ小サ其ノ鷹ノ惣体ト

(一二ウ) ツリアヒカナフガヨシ。眼ノヒカリスミテサヘタル星ノ如クヒト

ミ静ニサダマリテミダリニ転ジウゴカズ。物ヲミレハ正面ニサシムカヘルゴトクワキ目ヲフラスナリ。鼻ノ後眼ノ前ミゾ」(一三オ) タチフカクウネ

ハ高ク檐ノヒロクシテ間スク。カ様ノ類ハ心外ヘフレウツラヌナリ。ヨク

大物ヲトリ寿命モ長キナリ。ソレユヘ劉義慶幽明録トイヘル書ニモムカシ

楚ノ文王ノ飼ヘル鷹ハ頭」(一三ウ) ヲアケ目ヲスマシテ雲際ヲ遙ル

見ヤリテ鵬トイヘルスグレテ大キナル鳥ノ雛ヲトリシトシルセリ。

鼻ハ大キニ息ホソクシヅカニシテナガク吻ミダリニ開カズ。愁ノ毛タ、ザ

ル」(一四オ) カヨシ。愁ノ毛ハ突金ノウシロノ毛ナリ。是ハ寿命ノ長キ相

ナリ。又鳴声ノ響モ高シ。

背ハ本ノ方アツク末ノ方ホソク色黒クウルホヒツヤアリ。上ノ背ハ鸚鵡ノ

(一四ウ) 如ク吻ノ上セマク下タ大キニ下背スグニシテ広ク開クガヨシ。モ

シマガリタハムモノ背ノ上平カナルハアラクシテ物ニモヲソル、ナリ。或

ハタレイヅルハ何モアシクミニクキトス。タ、シア」(一五オ) ハスル時イ

サマサルナリ。

頸ハアツクナガミチカ其惣体トツリアヒカナヒ上タカクヲコリタチ玉子ノ

如クナルガヨシ。長スギタルハ茂ノ中ニ通シ飛コトナラズ。短カスギタル」

(一五ウ) ハ鷹ニ似タレトモ正真ノ鷹ニハアラヌナリ。

肩ハツヨクアツク二ノ羽ブシ骨ウスク高クサシ肩ト共ニウスク一ノ羽ブシ

骨大ニシテ高ク肩ト一ノ羽ブシトノ」(一六オ) 骨ノ間タカクタチテ相ヒフ  
ルカヨシ。是ハトク飛フ。斯ノ一色モアレバ羽ノ相ハアハストモ少ハ飛フ  
コトヲヤメズ。タトヒ肩羽ハ相ニカナフトモカシラ目理ニチガヒタルハ体  
重キナリ。」(一六ウ)

胸腹ハヒロク大キニムツクリトハリイテ、肥タルト瘦タルトノ違アレトモ

腹ノ大キナルガヨシ。是ハ寿命長トス。骨短クシテ腹ノ大キナルハ飢ヤス

ク命モ短キナリ。骨長腹小キナルハウエガ」(一七オ) タシ。能其ノソレ

ンカソレザランカヲ考ヘテ其ノ後ニ放テアハスヘシ。

背ハ溝穴アルガヨシ。

翻羽ネハ長スグニシテ鳩ノ羽ノ如クソバダチ尾ノ上ニ置クガヨシ。羽ノ次

薄」(一七ウ) 末少シ平ナルハヨシトス。ホロノ羽覆羽重錢ノ羽ミナウスク

ヲホフテツ、マヤカニ着クルカコトク羽ノ葉厚クツヨク羽ノクキ甲ノコト

ク広モ狭モキラハズ此相アレトモ肩ノ相チカヒタ」(一八オ) ルハ体重キナ

リ。羽ノシン角ニシテ羽ノナミキビシキハヨシ。逆羽ヲナスハ体ニブキナ

リ。又凌風ノ羽ハタゞシクツバサニツキアレトモナキヤウニ見ユルヨシ

トス。或ハマガリテツクハ自然」(一八ウ) ニアガリソ、ケイヅ。是ヲアシ

トス。

尾ハ本末トモニアツクシテツヨクスグナルガヨシ。或ハ越逸ト云フナリ。

尾ウケハ柔ニコマカニシテユタカニキビシキコト白キ綿ノ如シ。尾魁ハア

ツクシテ」(一九オ) 甲ノ如ク箭像町像ノ尾ハヨシアシニアヅカラズ。或ハ

箭像ノ尾ハヤ、アガリクタクレバ論ズルニ必スヨシトセズ。尾ノ幹屈アカ

リテ本アツク末ホソキハ迅ク飛ヒガタシ。其ノ上年ヲカサ」(一九ウ) ヌル

ホト次第第二拙キノミナリ。

毛ハコハクキビシクシテアザヤカニキヨキガヨシ。ソレユヘ晋ノ傅玄カ蜀

都ノ賦ニモアホキスカタシロキ羽ネ其ノキヨキヲトルトイヘリ。又晋傅玄

ガ」(二〇オ) 鷹ノ賦ニ勁キ翻ネ二六アリテキザシ速ニシテ体カロシト云ヘ

リ。取毛カタクセノ上ニ光リアリ。イタゞキラモテノ毛イサギヨキハ是寿

命長キ相ナリ。ムネハラノマダラ毛ハ広ク大ナルガ」(二〇ウ) ヨシ。タゞ

シフル鷹ハ斑ヲ毛次第二ヘリカクルモステザルノミナリ。  
 臀ハ孔ノ大ナルガヨシ。俗ニ最矢ト云フ。其ノ矢ヲツク時自然ニ尾ヲアケ  
 テウコカシ頭ヲタレテ遠クツクハ孔大」(二一〇オ)ニシテ力多ユヘナリ。

腰ハツヨキガヨシ。ホコノ上ニワシルトキカシラト尾ヲ少シアゲテトバイ  
 シ放ツ時能上ヘ飛ブ。ケハシク飛テ上ヘ向ヲ云フナリ。是勁キ相ナリ。但  
 ヲトレルハ下ヘ飛」(二二ウ)テシカモ獲物ヲトリ失フ。ソムヒテケハシク  
 飛下ルヲ云フナリ。腰ヨハキハ上ヘモ下ヘモヨク飛トイヘトモ物ヲトリエ  
 スナリ。

髀ハ長クソトハサカンニタチテ甲ノ」(二二オ)如ク手ニテナヅレバ肉少ク  
 ウチハ平ニシテ筋多クモ、蒺藜ノ骨ノセ大キニ肘ノ毛後口ヘナビクガヨシ。  
 脛ハアツクミチカクシテマロキカ如クワキヨリ見レバ広カ如ク前ヨリ見レ  
 ハ」(二三ウ)ホソキガ如クハダヘカハウロコノナラビタル如クタ、ミカサ  
 ネタル文アルガヨシ。モンノ大小ヲバカ、ワリ論ゼス。跌指ノ文モ是二同  
 シキガヨシ。薄ク弱キモノハ年ヲカサヌルタビニカ」(二三オ)タヨリソバ  
 タツカタチヲ成ス。カレテアブラツカザルヲ寿命長シトス。ソノユヘニ孫  
 楚力鷹ノ賦ニ足ハ双、枯ノ若クト書イテ兩ノ脛ヲドロノナラビカレタル如  
 キヲホメタリ。」(二三ウ)

足ハクルブシ大ニ跌平ニシテカル、ガヨシ。モシムツクリトコヘ色地黄ノ  
 如キハハレヤスシ。

指ハフシヲハナレ大ニシテ指ノ間開キシ、マルガヨシ。」(二四オ)

大指ハホコタカダヌキニキルコト三時バカリイテモ指ヲカ、メスタ、シク  
 相向ヒ対シ小指モ亦タ、シク立ツコトヲエタリ。ウシロ指ノ本上ハ皮薄シ  
 テ柔ナリ。」(二四ウ)

爪ハ本アツク末ホソク上隆ク下ハ平ニシテ色黒シテツヤアルガヨシ。マガ  
 リ大ナルハ鳥ヲトリハナサズアツカルヘキ爪ノ本ハウスクウスカルベキ末  
 ハアツクシテマガリ小キハ鳥ヲトル時」(二五オ)抽テニグルナリ。又ホコ  
 ニキル幣ヲアケヤスシ。  
 アガケ巢鷹ヲ相スルハ知りカタキ者ナリ。タ、シ巢鷹ハ鳥ヲトリテ毛ヲト

リ口ニフクミテ人ニミセシメズ。人ノ手ヲモトリ」(二五ウ)カム。ツネニ  
 鳴声多キナリ。

網鷹ハ毛羽ネアザヤカニウルハシクシテ色サラシタルガ如シ。ツネニ鳴声  
 少シ。ソレノミナラズ年数ヲカサヌルタビニ老若キモシリカタシ。或三四  
 年ヲ」(二六オ)フレトモ毛羽ノ斑文ヘンジカハラズ。脚ノカタチモ前ニカ  
 ハラズ。或ハマダラノ文ハ年くニヘリ脚ノ形ハソバタチヤスシ。変ジカハ  
 ルコトサマ、ナレバ其幾ヲシリカタシ。シカシナカラスベ」(二六ウ)テ  
 イエハ脚マロキハソハタチガタクヒラメナルハソバタチヤスシ。タ、シマ  
 ロシトイヘトモカユガリアレハ必ソバタツトナリ。」(二七オ)

相隼鵠法 ハヤブサヲ相スル法ナリ。  
 スベテハヤブサハイタ、キタイラカナルガヨシ。

背シマリアツクシテマカリ鼻ノ孔大ニサケテカ、レルアナノ如クナルハ雄」  
 (二七ウ)ナリ。

鼻ノ上皮膚ウスク領ユタカニハリクビノ本アツクシテ玉子ノ如クツバサハネ  
 ヒロクシテソバタチ背ハ甲ノ如クモ、大ニハリアシブミ十文字ノ如ク爪ノ」  
 (二八オ)上マロク下ヒラク腰アツクシテ勁シ。此余ノ相ハ鷹ト同断ナリ。」  
 (二八ウ)

新修鷹經中卷

調養 ナル、様ニト、ノヘ養フヲ云フ。

鷹ハウユルトキハ人ニツキアクトキハハナレ揚ルトナリ。ソレユヘニ魏曹  
 操陳登ニ謂テ曰ク鷹ノ性色々アリテ」(二九オ)同シカラザレバ調フルニモ  
 又シナ、アリテ各別ナルベシトナリ。天性、快キ鷹ハモトヨリ調フルニモ  
 不レ及大ムネヲソル、鷹ハ調フレトモ其ノ用ヲエガタシ。マコトニ器量ノ  
 人ニアラザレ」(二九ウ)バ其ノ道ハカリ行ハレズトナリ。故ニ後周ノ魏取  
 ガ曰ク鷹ヲ察シ目利スルコトハヤスケレトモ調ヘ飼フコトハマコトニカタ  
 キトナリ。今調養ノ術ノ品々ヲカンガヘ其ノヨキモノヲエラ」(三〇オ)ブ  
 トナリ。

養鷹法

凡ソ養鷹コトハ東南ムキノ高ク湿気ナキ地形ニイエヲカマヘ窓ヲ作りアカルク暖カナル様ニ隔子ヲカケ陽氣」(三〇ウ)ノ時ハ隔子ヲカ、ゲ陰氣ノ時ハ隔子ヲタレヲロス。其ノ中ニ格ヲキホコタレヲカケホコノ前ニ鷹カヒノ床ヲラク。ホコトユカトノ間ハ鷹ノウチカ、ラザルホドナリ。燈鑑ヲモフク。鷹ニ」(三二オ)燈ヲ見ナラハサシメシメタメ又ハヤミノ夜ニ鷹ノサカシマニカ、レルヲ見 弁ガタメナリ。昼夜カハルマモリ見ヨトナリ。鷹アルヒハ驚キテ格ヲ飛ビヲリサカシマニカ、リテアガリエズ。」(三一ウ)アルヒハ旋子ハズシ日々羽ウチス。カクノコトキラスクハサレハ命ノ殞絶コトヲイタス。ソレユヘ二人ヲシテシバシモ鷹ノソバヲハナレヌ様ニセシムルナリ。日晴暖気ナルトキハ庭ノ中」(三二オ)ノ格ニツナギヒカケヲラヒ背ヲアブラシム。シバシアリテ水アミセヨ。凡水アミセルコトハ鷹ノコノミ嫌フニマカス。モシ鷹ノコ、口体ニ応セスケガル、トキハシイテモ水アミサスルナ」(三二ウ)リ。肥タル鷹ヲ飼ヒト、ノフルニハ馬豕兔鼠鶏 雉ノ肉ヲカフ。肉ヲ切ルコトハ長サ一寸バカリ広サ五分ハカリニシテウスクス。スベテ切り肉トイフハミナ如此ナリ。温ナル湯ニヒタシ箸ニ」(三三オ)テ攪マゼルコト十遍バカリ。四月八月ハヒヤ、カナル水ニヒタス。カクノゴトクスルコト五度。毎ド湯ヲカヘ其ノ後手ヲ洗テ右ノ肉ヲツカミクタク湯ヲニゴラシ又湯ヲカヘテキヨクスマ」(三三ウ)シメシヅカニ湯ヲシタシテ少シハカリウルホヒシルヲノコシテウツハモノヲカタフケ日影ヘムケテホシアブル。良ヒサシクシテ鳥ノ毛ヲトリマロメテ碁石ホトニシ四ツ五ツ肉ヲカキマ」(三四オ)セテコレヲ飼フ。飽ヲキラヒイトハヌナリ。田ニ出ントセバ五六日前ニシ、ヲ調ヘヨ。モシ太タ肥テ食ラズンバ前十日ハカリ或ハ一日或ハ二日三日ヘダテ、コレヲカヘ瘦タル鷹ヲ調フル」(三四ウ)ニハ豕兔ノ肉ハ切りテアタ、カナル湯ニタ、ヘシバラクアリテ汁ヲステ、飼フ。馬鼠ノ肉ハ切りテ湯ニヒタシ箸ニテカキマゼルコト二遍湯ヲカエルコト二度汁ヲステ、飼フ。馬鼠ノ食物」(三五オ)ハシハハユシ。鷹ヲヤブル故カナラスコレヲ濯ナリ。鶏雉水鳥ノ肉ハ胸ノ肉ヲキリサキアタ、

カナル湯ニヒタシ肉ノ氣ヲシテ通り徹セシメタカタヌキニノボセ啄シム。水鳥ハ必シモカハ」(三五ウ)ス。モロノ小鳥ヲ哺。鶴ニハ鶉雀鼠ヲカフコトカクノコトシ。鼠ハ鷹ニ同断ナリ。モシ太タ瘦セタル鷹ニハ日々ニ飼フコト或ハ二下或ハ三度セヨ。凡ソ巢鷹ハアゲウツノ時漸々ニ呼カフ。十」(三六オ)日バカリ鶉雉ノ雛ヲ以テコレヲナゲアタフルコト五六度。「鶉ハ鶉雉ノヒナ又ハウヅラ小鳥ヲアタフ。」其ノ後鈴ヲツケテ田リニ出テ雉ニアハス。トリエタル時ハ雌雄ヲエラバズコレヲアタフ。「鶉ハ鶉モロノ小鳥ニアハス。或ハコ、ロヨクサカンナルハ雉ニモアハス。ニブキモ」(三六ウ)ノハアハセス。常ニコレヲナラハサシムヘカラス。」ステニ調ヘナラハシテ其後鷹ノ肥ヘヤセニシタカツテウヘシメアカシムルナリ。「鶉ハ肥ヘタルヲイトハス。タトヘ肥スキタルトモアヘテ用ヒラレスナラ年ヲコヘトノヘナラハスヘシ。」羅鷹ハクラキイエノ内ニツナキ「或ル説ニアミ鷹昼ルハヨカラズトナリ。」夜ハヨヒヨ」(三七オ)リスエテ火ノ側 坐ス。ヨモスガラモ熟スルニアカズ。翌日午ノ刻ニ又ツナギツク。其ノ後モ又ヨヒヨリスユルコト前夜ニ同シ。カクノゴトクスルコト三日三夜。其ノナル、カアラキカヲ考ヘテ」(三七ウ)食ヲヨキホドニカゲンシカヒスエテ手ニツカシメ人ノサハガシキトコロ市ノ中ニスユルコトモツトモヨシ。鷹ケフリ 屍ナドアルトコロヲヨケテスユベシ。ヲトロキヲソレシメジトナリ。」(三八オ)シ、ヲアタヘバ鶉雉ヲ用ユ。鼠ハ切りテアタ、カナル湯ニヒタシシバラクアリテ其ノ皮ニテツ、ミ細キ繩ニテ十文字ニ結ヒユハ又アタ、カナル湯ニヒタシ其ノ氣ヲ通り徹セシム。其」(三八ウ)後皮ヲドキヒラキコレヲ出シ湯ニテス、キテアタフ。「野心アリテクラハズ皆クヲフヤウニ如レ此セシム。」ヤ、ナル、時ヨビテ食ヲアタフ。ヨビナラスコト数日ニシテ鶉雉ヲナケアタフ。鶉ハ巢鷹ノ法ニ同シ。既ニナレ熟シテノ」(三九オ)チ肥ヤセラ調ヘツナキスユ。

調ル法巢鷹ニ同シ。但シ嶋鳥ヲカハズ。

入レ田 放レ鷹法 田ノ時鷹ヲアハスル法ナリ。

凡カリニ出テ鳥ヲトルコト或ハ多ク或ハスクナシ。少ヲコノメハ常トナリ

テヲクレ」(三九ウ)テハセス、ム心ナキツイヘアリ。多ヲコノメバカライ  
 タシ事シゲキヲキラヒテ快キ理ナキツイヘアリ。鳥ヲトルコト多ト少キト  
 ハ時ニシタガヒテヨキホトニセヨトナリ。鷹ヲアハスル後」(四〇オ)先シ  
 ヅカニ馬ヲトメテ鷹ヲ見送り目ジルシヲツケヲハリテ鞭ヲアゲテス、ム。  
 五六間バカリホドニテ手綱ヲヒカヘテゼン、ニチカヨリセマル。鷹草ヲ  
 出テ起ハスナハチ犬ヲカケテカ、」(四〇ウ)シメヨ。アサノ緒ノ長キヲ以  
 テ経トセヨ。是ハ鷹ノ鳥ヲトリタラントキ急ニトランガタメナリ。シカラ  
 ザレバ犬鷹ヲ害スルコトアランカトナリ。モシ草深ク鷹タ、ズンバ馬ヨリ  
 下リテ呼ア」(四一オ)ゲテ其後犬ヲユルシテカ、シム。「馬ヨリヲル、コ  
 トハ其ノ時ノ便宜ニシタカフ。必常法ニアラス。」モシ鷹ハヤク草ヨリ出木  
 ニ集ハ鷹ノ眼ノムカフトコロノ地形ヲサツシテ犬ヲヤツテ鳥ヲ尋ヌ。サカ  
 シキトコロヲコハ高キトコロニ立」(四一ウ)テ鷹ヲヨベバ鷹犬ノ方ニシタ  
 ガヒテトビ逐フ。モシ鷹呼ニヲフゼズンバヨビカヘシトレ。其ノ鳥クタビ  
 レツカレバ必ヨビカヘサザレ。タ、ニ犬ヲユルシテ鳥ヲカマシメテ後ニヨ  
 ブノミ。鷹」(四二オ)呼ハザレドモ犬ニシタカヒテ飛来ルハ鷹ヲ手ニトル  
 コトヲ用ヒズ。犬ト年ヲヘテ調ヒナラベルガユヘナリ。カヤウノ鷹ハ野ノ田  
 ノ地形ヲヨク察シ考ヘ先鷹ヲ林ノ中ヘハナチ其後ニ犬ヲカ」(四二ウ)ケ鳥  
 ヲモトムルナリ。鳥ヲ獲テ鷹ニカフニハ先鞭ヲ腰ニハサミ「馬ヨリ下ル時  
 鷹ノツバサノクキフレテソコネヤブランガタメナリ。」鷹ヲ取テ清キ水ノ辺  
 リニツキ先左ノヒザヲタテ左ノ手ヲ膝ノ上ニヲキ「或ル説安ザシテ鳥ヲソ  
 バタテ左ノ膝ニヲキツイバマシム。」鳥ノクビヲ羽」(四三オ)ネノ中ニツ  
 、ミアシトソヘ取りテ鳥ヲ側ニヲキ鷹ハ上ニ集サシメ小刀ニテ鳥ノ胸ヲヲ  
 シヒラキ水ヲソ、ギカケテ啄マシム。モシ猶又ツカハントセバ肥ヘタル鷹  
 ニハ鳥ノ胸ノ肉ヲツカ」(四三ウ)ミクダキクラハシムルコトモアリ。カク  
 ノゴトクセズシテ日ヲカサヌル時ハ鷹調ヒ習ハス。肉ノカイ様多キ少キハ  
 鷹ノ肥タルトヤセタルトニ相応セヨトナリ。鈴ハ」(四四オ)朝ツケテタヘ  
 ニハトク。シカラサレハ鷹鈴ヲカミ鈴ヘ喙ヲハメテ倒ニカ、リ死スルコト  
 アリ。スベテ鷹ヲツカウニハ鶴ハ左ノ方鷹ハ右ノ方犬ニカ、シメテ鳥ノタ」

(四四ウ)ツニマカセテアハス。タテニアハスレバ鳥ヲトリガタシ。横ニア  
 ハスレバ鳥ヲトリヤスシ。鶴鳥ヲ追テ草ノ中ヘ入ラバ馬ヨリ下リ漸々ニ  
 チカヨレ。モシ鳥ヲエザレバタカダヌキニホセ馬」(四五オ)ニ騎リ「或  
 ハ必シモ馬ニノラス。」犬ヲシテカ、シム。モシ鳥ステニツカレテタチマチ  
 犬ニカマレントセバ犬ヲツナキ鳥ノタツヲマチテトラシム。トルタビニ鳥  
 ノ脳ヲアタヘカフヘシ。鶉モロ、ノ小鳥ヲ云」(四五ウ)フ。必タビゴト  
 ニアタヘカフニモアラズ。ヨキホトニ見ハカラフベシ。鳥ヲエテ鶴ニカフ  
 ニハ清キ水ノ辺ニツキテ坐シナヲタカダヌキノ上ニヲイテ水ヲソ、キカケ  
 テクラハシム。其肉ノ分」(四六オ)量ハ鶴ノ肥ヘ瘦ニ相応セヨ。「カフ法  
 鷹ト同シ。」若水鳥ニアハセバ「鴛鴦鷺ノ類ヲ云。」躬ヲク、メ鶴ヲシヅメ  
 漸々ニ近カヨリセマリテアハスルトキニ声ヲカク。鳥タチテトリエルタビ  
 ニ其ノ鳥ノ背ノ肉ヲ啄マシ」(四六ウ)ム。モシカフベタンバ肉ヲワケツカ  
 ミクタキコレヲアタヘヨ。「田鳥ヲ啄マシムルモ是ニ同シ。」スベテ鶴ヲア  
 ハスルニ犬ヲ牽ク者ヲ能ツ、シマシムベシ。犬モシ鶴ヲ害スルコトハカル  
 ベカラズトナリ。」(四七オ)

夏養鷹法

凡ソ鷹ノ羽ネ毛初テ落ル時「四月下旬五月上旬ヲ云フ。」吉日ヲエラビ酒ヲ  
 ソナヘ祭りヲナシ「小屋ヲ出ス時モ是ニ同シ。」小屋ノ中ニハナチヲク。小  
 屋ハ一丈四方ハカリニシテ東南ノ地ニ」(四七ウ)コレヲカマヘ戸ヲ南ムキ  
 ニス。「カケイレナス様ニ作り本ヲアムナリ。」湿気ナクカハキサハヤカニ  
 シテ暖ナルヲコノム。其中ニ架座ヲヲク。藁ヲ以テコレヲ作り布ハ一尺  
 ハカリニテ縫ツ、ミマロクス。東ノカベニ小キ」(四八オ)アナヲアケアナ  
 ノ内ニ餌閣ヲヲク。「アナヲ小クスルハ鷹ノ出サルタメナリ。」又小屋ノ内  
 ニ一尺バカリノ石ヲヲク。凡ソ飼ヒカフニハ雜肉コレヲアタフ。肉バ切り  
 テキヨキ水ニテ濯。麻ノヲニテユハヘテアタフ。鶴ニハ燕」(四八ウ)雀  
 毛ヲヒイテユハヘアタフ。或ハイキナガラモアタフ。一日ニ一度或ハ二度  
 ナリ。小屋ノ掃除ハ五六日ノ後ナスナリ。夜ハ燭ヲトホシコレヲハラフ。  
 昼ハ鈎ヲ以テ遠クハラフ。蠅ノ類ナマグ」(四九オ)サキニツキ肉ニモ

ツクトキ鷹ニ食セラル。鷹ニモアシキ故ナリ。第一ノ羽初テヲトサバクフ  
カタ水アミ船ヲラキ日とニ水ヲ入レカフ。雨ノフル日ハイレザルナリ。小  
屋ヲ出ルマテ水ヲ入ルナリ。」(四九ウ) 羅鷹ハ水ヲコノム。 鷓同シ。小  
キ器ニ水ヲモリ餌閣ニラク。小屋ヲ掃フ時ニ鷹ノ肥ヘ瘦セヲ見ヨ。肥ルト  
キハコレヲ習シ調ヘヨ。太ヤセルトキハ死スベシ。外へ出シテホコニツ  
ナキ療治シ」(五〇オ) 飼ヘトナリ。毛羽ネ落チカハリテ第一ノ羽出テソロ  
ヒテ一寸バカリノ時小屋ヨリ出ス。「イタスハ十日バカリニ鷹ノ肥タルトヤ  
セタルトヲ調ヘ養ヘシ。タゞシ鷓ハ五六日ナリ。」出シテ後手ニトルコト羅  
鷹ト同シ。鈴ヲツクルハヨクく鷹ノシ、ト、ノヒ」(五〇ウ) タルヲウガバ  
ヒテツケヨトナリ。モシ肥トヤセトヲト、ノハサルトキハ鷹イキツキアシ  
ク死スルコトヲイタス。夏ノ養ハ鈴ヲツクルトキウコカシテ鷹ヲヤブルコ  
トヲイタスユヘシカ云」(五一オ) フ。ツ、シムベキトナリ。

養雛鷹法

ヒナ鷹ハ小屋ノ中ニ置。小屋一丈四方ハガリナリ。皮ヲヨビコケツタナト  
ヲ以テ巢ノ様ニカタドリコレニスマシ」(五一ウ) ム。窓ハ高ク作り明ニセ  
シム。鷹ノ出ザル様ニセヨ。又人ヲ見サルヤフニスルナリ。人ヲ見レハ鳴  
ケバナリ。飼ヒカフニハイキタル肉ヲアタフルヲヨシトス。死タル肉ハヨ  
カラズ。馬豕、兎、亀、雉等」(五二オ) ナリ。但シ鷓ニハイキタルモロくノ  
小鳥ナリ。七月ノ中旬夜半コロニトラヘトル。秋ノ殺氣イタリテ鷓、鳥ヲ  
繫クナリ。立秋ノ後ハ羽ツバサソロヒテミダリニ飛テヤマス。羽ネヲ損シ  
命ヲ損ス」(五二ウ) ルコトアリ。ソレユヘ小屋ヨリ出スベシ。アラキユヘ  
ニクラキ夜ノ中ニツナニテツナキ鷹ニユハヘツナギシコトヲシラシメント  
ナリ。三日スユベシ。ナレバ肉ヲアタヘヨ。瘦セザルヤウニナ」(五三オ)  
スベシ。又一ノ法ハ籠ノ中ニ巢ヲ作りテスマシム。巢ノ作りヤウハ上ニシ  
ルセル通りナリ。能くく食ヲホトヨクシウヘシメズ。ウユレハ身体成長  
シガタシ。アキスグレバ膝タレスネコトニシテ」(五三ウ) 毛羽ヲモソコナ  
ヒアシキ鷹トナル。籠ヲ出シテ絆ヲツケバ鷹ノ身ヲ自由ニナサシメ快クト  
バシメヨ。食ヲアタフルニハ呼ビナラスコト数ケ日アリテホコニモツナギ

手ニモスヘヨ。毛羽ネ」(五四オ) イマダヨハケレバユルニモツ、シミテ  
損ゼザル様ニナスベシトナリ。」(五四ウ)

着脚絆法

脚絆ヲツクルニハ正ク鷹ヲスヘテ鷹ノ後ヨリフル絆ノカミニツクルナリ。  
杖ヲ以テカハノヲモテヨリハ、キモトノアナラクジリハ、キノスエヲサ  
シイ」(五五オ) レ紙ニテヒキトホスナリ。モシシブリテイリカタクハクロ  
カネノスシヲモチユ。脚絆ヲ縫ニハ洗革ノヤハラカナルニテコレヲツクル。  
縫コトハキビシクカタカラシム。ハ、キニイタリテク」(五五ウ) ツロキヨ  
ケイアラジムルナリ。繫把ノ末ヲ脚ニツクルナリ。ハ、キノヒロサ一寸五  
分長サ二寸繫把ノ長サ七寸五分ナリ。鷓ノハ、キハヒロサ八分長サ一寸五  
分ツナキハ長サ六寸五分ナリ。」(五六オ) 革ヲタツニハマナイタノウヘニ  
ヲイテ一寸五分ノ小刀ニテ長短ハ鷹ニ相応シテサキヒラクナリ。ハ、キモ  
トヲキリタチテハ、キ先ヲ椿ノ葉ノ形リノコトクシハ、キ鷹ノアシノ大小  
ニ」(五六ウ) 相応スルナリ。又小刀ニテハ、キモトノ裏ニ穴ヲアケ革ノヲ  
モテヨリ真中ニクジリニテクジリツナキ把ヲツラヌキヒキカヘスナリ。又  
ハ、キヲウカツコトスエ三分バカリ」(鷓ハ二分ハカリナリ) 真中ニ」(五  
七オ) ヲキクジリニテヲモテヨリ裏ヘムケハ、キノ末ヲカヘシダシ紙ヲサ  
キ穴ヲツラヌキテコレヲヒキトラスナリ。

繫鷹法

鷹ヲツナクニハ鷹ヲスル人右ヲ先」(五七ウ) ニシテ身ヲソバタテホコニ  
チカヨリ右ノ手ニテ長絆ノ両端ヲトル。左ノ手ハホコヘト、カサルコト三  
尺バカリナリ。鷹ヲハナツコトハ鷹ノ飛ニマカセコブシヲユルクシモトラ  
シヲシテ」(五八オ) トヲリユカシム。鷹ホコニイバ左ノ手ニテホコヲサ、  
ヘ右ノ手ニテ帳ノマヘニツナキツク。若鷹ハルカニホコヲ見テ飛ムカハ、  
再三タカタヌキヲヒキ其後ニハナチヤル。鷹モシ飛ムカハ」(五八ウ) ズン  
バスタニホコニツナキシイテイサシムルナリ。ホコヨリ鷹ヲロサハ鷹ヲ  
トラントスル人先ツ心ヲシツメ右ノソバヨリ身ヲゼンくニス、メテ左ノ  
肩ヲホコヘチカツケシメ長絆ヲトキ右ノ手ノ」(五九オ) 中指ニナカヲノカ

タハシヲヒトマトイマキツケ左ノ手ニテ脚絆ヲトリヒイテ脚ニツラヌキセマリ右ノ手トトモニヒキ高クスエテホコヲハナチモチサル。若絆ヲヒキ逼サレハ鷹キレ羽」(五九ウ) ネヨハクシテホコニテソコネンコトアラントナリ。

鷹フスレ法

鷹ヲフセルニハ先ツ鷹ヲシツメタ、シク臂ノ上ニヲラシム。(或説ニ鷹キレバ飛クライノ時スグニ右ノ) (六〇オ) 手ニテ鷹ノ両脚ヲアハセトリ鷹ノタ、シクヲルコトヲマダストナリ。鷹ヲトラントスル人両ノ手ヲ袖ノウチニカクシゼン、二手ヲアケテス、ム。左右ノ無名ノ指中指ニテ鷹ノ両膝ノフシヨリウエヲサシハサミトリ母指ニテ左右ノ羽ネ」(六〇ウ) ヲイトヒ胸ノ上尾ノ下ニアケツク。首ヲ鷹ノ右ニウツシ脚ハ左右ノ手ヲソヘコレヲサシハサム。ナヲ左ノ手ヲ鷹ノ胸ニツケシバシノアイタ鷹ノイキヲシヅメシメ左ノ手ニテ鷹ノ右ノ脚」(六一オ) ヲトリカ、メ其ノツキニ左ノ手ノ母指ニテ右ノ重錢ノ羽ネト脚トヲカネテトルナリ。(指羽ユヒブシノホネ氣衝ナラヒニハラコシナトニフレサハラザルヤウニスベシ。コレヲヲカセハ鷹ニカヒアルナリ。) 又右ノ手ニテ鷹ノ左ノ脚ヲトリカ、メツキニ右ノ手ノ母指ニテ重錢」(六一ウ) ノ羽ネト脚トヲカネテトリアハセ其後安坐シテ鷹ヲスエモツナリ。(或ハ鷹ヲ両ノ股ノアイタニツクルモノヲヲトレリトスルナリ。) 若鷹シヲアヲガサセントセバ胸ニツケルノ後右ノ手ニテ両脚ヲトリ左ノ手ニテ羽ネ尾ノウチカシラノ」(六二オ) ソトヲ右ニマハシ兩膝ノアイタニヲク。則チ左右ノ母指ボシシヨクシ食指ニテ各両ノ脚ヲサシハサミトル。又若更ニフサシメントセハ右ノ手ニテ両脚ヲトリ左ノ手尾羽ヲカネトリテ左ニマハシ胸ニ」(六二ウ) ツクルナリ。(余法ハ上ニシルセルト同断ナリ。)

着ケ鈴ラツナク繫法

鈴ヲツケツナグニハ鷹ヲトリフセシメ左ノ手ニ尾ヲトリ右ノ手ニ錐ヲトリ尾魁ニコケヲヒラキ蠶ニコケニ水ヲツケヲサメ」(六三オ) ナヅ。ナツレトモ蠶ニコケヲサザレバ刈去ル葉ヲ鈴ツケ尾ノ下ニサシハサム。(鈴ツケノ尾トハ尾ノ真中ノ二枚ヲ云フ。) 鳥ノ羽ネニツケテ」(ハダヘニイタラザルコト二分バカリニシテコ

レヲツク。) 左ノ手ニテ尾ノ下ニヲクリサシハサミ錐ニテ鳥ノ羽ノ根ヲウガツ。本」(六三ウ) ノ頭ヲサルコト二分バカリナリ。鶴ハイツカハ、苞カサツト平ナルトキハユル、トコレヲヌキ針ヲ其ノ孔アナニツラヌキ尾ノソトヘヒキ出シメ針ヲ去ル。鈴ツケノ尾ノソトヨリ錐ノ本ニテ糸ヲツリ葉ノ上ヨリ」(六四オ) コレヲイダシ両ノ縷イトスチヲヒトヘニ結テコレヲヒキノバシ一ノ縷ヲ尾ノ内ニツリイタシテ左右ノ手ニテ各糸ヲモチテ手ヲ合テユル、トヒキツゞメカサネテ両ノ縷ヲタゞシ革ノ上孔ノ中」(六四ウ) ホトニテムスブ。(若手ヲ合テ糸ヲヒカザレハ絲キレテ鷹ノ害ヲナスナリ。) 又一ツニハ絲ヲツゞメムスビヒトヘニ結アマシテ一分バカリニテキリサル。革ヲキルハ一度ニタツナリ。形ハ圭頭ナリノ如クシ本端ノ両角カトヲソヒテ鈴ツケノ」(六五オ) 尾ノ本ヨリ末第二ノ斑文ハンブンノ末端ニイタルヲ度トス。彩色革ノヤハラカナルヲ以テコレヲツクル。サキニ長短ナカシカヲ考ヘハカリキリトリテマナイタノ上ニヲキ両ツノ釘ヲ革ノ本頭ニクギウツ」(六五ウ) 又両ツノ釘ニテ革ノ末頭ヲマナイタノソトノカドニクギツケ五寸ノ小刀ニテ先右ノ革ヲタチ小刀ヲソバダテ、外ノカタヲキリ小刀ヲ正クシテ内ノカタヲキル。左ノ革ヲタツモ是ニ同」(六六オ) シ。一ノイトスヂニテ其ノ両端ヲクギツケノ革ノ本ニツラヌキ上二分ニ孔ヲウガツ。鶴ハイツカハ分ナカナリ。釘ヲツラヌキカケイトヲ革ニツリコレヲスベク、ルナリ。鳥羽ネヲツクルコトハ鷹ニ」(六六ウ) ハ第一二三ノ羽ネヲ用ユ。根ノ長サ一寸四分。鶴ニハ鴨ナトノ第一二三ノ羽ネヲ用ユ。長サ一寸ナカホドヨリシモヲキナカホドヨリ上ヲケヅリソギテタテ内ノ方ヲ折ル。剪キル葉ハ二寸四」(六七オ) 方ナリ。鶴ハ一寸五分ナリ。大モチノ木ノ葉ヲ煮テカゲボシニシテ用ユ。

攻ル翳ヲ法

翳ヲ攻ルニハ鷹ヲトリテフセ右ノ手ニテ翳ヲトリクビヲ引ノバシ左ノ手」(六七ウ) ノ無名ノ指ノ間ニハサミモチ右ノ手ニ一寸ヨリ内ノ小刀ニテ翳ノ末ヲキリト、ノフ。又鷹ノ口クチヲ開テ食指ヲ鷹ノ口ニ竿イメテ翳ノワキヘイヅルヲケヅリ去ル。(古人ノ説ニハアミタカハケヅラザルヲヨシトス。今ハヲトレリトス。) 小刀ヲソ」(六八オ) バダテ、キリハラヒ潤沢ニナルヤウニセ

シメヨトナリ。小刀突金ノ方ヘヲヨバザル様ニツカフベシ。突金ノ方ヘ出レバ鷹ニ害アリ。タゞシ翳ノ末イデタルハ害ナシ。翳ノ末ヲハラサムベカ(六八ウ)ラズトナリ。

攻レ爪ツ法

攻レ爪ニハ爪ヲトリテアフノカシメ一寸ヨリ内ノ小刀テ爪ノ末ヲキリトギ爪ノ上ヲケヅリサリ匂ヨカラシメヨ。(六九オ)ナガサハ鷹ノ恰好ニ応スルノミナリ。「爪イデタルハ害ナシ。ハゞカルベカラズトナリ。」

禁忌法 鷹ニイミキラフコトナリ。

イミキラフ中悲ヲ本トス。喪アル家ニハカナシミイタムコトサカンナリ。古(六九ウ)今ニ考ルニ悲アル時節カリ獵スベカラズ。鷹匠モ凶喪ノ事アルトキハ鷹ヲトリスユルコトヲ得セシメズ。

繫格ホゴ法

夫レ鷹ノ性ハ驚キウタガフコト多シ。(七〇オ)ホコニ繫ク時ヤ、モスレバソコナヒヤブルコトヲイタス。ホコニツナグノ道ヲ得レトモ或ハ時とアヤマリウシナフコトアリ。鷹匠先ツ手ヲタゞシフシテホコニノゾム。タレヲカケザレバシ(七〇ウ)バラクモツナクコトヲエザレ。目ノ病カユガリ血痢ノワヅラヒアル鷹ハ平生ノ鷹トハ同格ナラズ。「脚カユガリアルハコレヲユルス。」鷹ト鶴ト同クツナグコトモ禁ズベシ。大ハ小ヲ害スルノ心アルガタメナリ。(七一オ)

鷹屋禁

鷹ヲナレカフノ道ハシヅカニキヨクナラシメヨ。サハガシクケガラハシキ事尤禁スベシ。鷹屋ノ内ス、ケブリフスブルコトナカレ。鷹ヲ飼フモノ鷹屋(七一ウ)ノ内ニテタハフレアソブコトナドナカレ。

放レ鷹ツ禁

鷹ヲハナツノミチマヘノモノヲウカガフベシ。モシ鳥イマタ草ヲイテザル(七二オ)ニ鷹既ニハナル、時ハカケリキルノ間犬ニカマル。鷹匠此道理ヲツ、シンテ失フコトナカレ。

吐ク毛ツ禁

鷹ヲカヒヤシナフノ道毛ヲハクヲカ(七二ウ)ンヨウトス。未ハカザルサキニハヤク肉ヲアタフレハツモリテ隣モチヲソコナヘヤブル。鷹匠コレヲツ、シムベシ。但シ鷹ノテイツカレテ一日ニ二度カフホトナルトキハ一二度斗ハ毛ヲハク(七三オ)コトヲマタズシテ肉ヲアタフヘシ。

拭ツ翳ツ禁

翳ヲヌグウノ法ハ鷹ノ進退ニマカスヘシ。若シ鷹ナレジユクセザルニシイテ拭杖ヲアクルトキハ翳ノカタハラ(七三ウ)ノ毛ヌケヲチテミニクキコトヲナス。鷹匠ヨロシク此ヲモムキヲシルベシ。未ダナレジユクセザルノ鷹ハ水ニソソンテ浴ヨバシアラウベシ。

走レ馬ツ禁(七四オ)

鷹ヲスエテ馬ハシラセバカナラス鷹ヲトロキヲソレヤブレカイスルコトアリ。鷹匠タヤスク馬ヲハスルコトヲエザレ。鶴ノ子ハモツトモツ、シムヘシ。(七四ウ)

穢タル器ノ禁

鷹ヲカヒヤシナフノ道ハアサヤカニイサキヨキヲタツトブ。シハハユククサキモノハカナラス鷹ヲソコナフ。酒氣シホ鹽氣シホアタ、カナル等ノ器ニイレテ(七五オ)肉ヲアタフベカラズ。

汗手禁

凡ソ穢ケカレアブラツクモノハカナラス鷹ヲソコナヒヤブルノ理アリ。鷹匠カヒヤシナフ時ハ崇アガメテ手ヲアラウベシ。(七五ウ)

飲酒禁

酒ハ毒熱モツトモサカンナルモノナリ。ソレノミナラス酒ニ酔ヒタルトモカラハ手足モ顛倒ス。カクノゴトキ人ヲシテタカヲ撃シムレバカナラス害(七六オ)アリ。鷹匠フカク酔ヘル時ハ鷹ヲスユルコトヲエザレ。(七六ウ)

新修鷹経下卷

療治

梁リヤウ陶弘景イヘルコトアリ。人タル物ノ大ナル患ハ疾ヨリ急ナルハナシト。

疾アリテ療治ヲ加ヘザルハ火ヲケスニ(七七オ)水ヲ用ヒザルガ如シ。イ  
ユルノ理ナシトナリ。人スデニカクノゴトシ。鳥類モ又其ノ道理ナリ。鷹  
ノ病ヲ療治スルコト上古ノ代ニハ病論アラザレトモ近代後周ノ魏収大略ノ  
ベシルセリ。今モ(七七ウ)又其意ヲ引テコレヲ後段ニ品トシルセリ。

凡鷹ノ目ノ病ハ平生調ヒ養フコトノアラキユヘナリ。目ノアシキヲウカ  
ヒ見ルニハ肩ニテ目ヲスリ睫ヲトヂ(七八オ)目ブチ次第ニハレドニクイ  
デ瞳ヲスル様ニ見ユル類ナリ。黄連ヲ煎シテ鳥ノ羽ニテ鷹ノ肩ニヌレバ肩  
ニテ目ヲスル度ニ薬ノ氣目ニ及テ快駿アリ。又ハシホヲスリ酢ニトキテコ  
レヲヌル。(七八ウ)右ノ薬方ヨリハヲトレリトス。又目カスムニハ龍膽  
ヲトリテコレヲ折レバ莖ヨリ汁出ツ。コレヲヌル。又一ノ方ニ蠅ノ首ヲア  
マタキリアツメ銅ニテスリテコレヲツクトナリ。シカシナカラ此(七九オ)  
一ノ方ハイユル証拠ヲ見ズトナリ。

治鼻塞一法

ヲヨソ鷹ノ鼻フサガラントスル時先鳴ク声ウルハシカラズ。トバヒシテ後  
ハ息急ニ鼻ノ孔ナル鷹ヲトラヘテフ(七九ウ)サシメ紙針ニテスミタル胡  
麻ノ油ヲアギトノアナニヌリ鼻ノアナヲ吸ヒテ油ノ氣ヲトホラシム。又一  
ノ方ニハ人先ッ口ヲス、ギヒヤ、カナル水ヲフクミ真直鷹ノ鼻ニ吹き入ル。  
水ワキホ(八〇オ)トハシリチラザル様ニナスベシ。病ノ愈ルヲカギリニ  
幾度モ右ノ如クス。タゞシ水ヲ吹クハ暁クラキ内ニナスベシ。昼ナスベカ  
ラズ。鷹水ヲ吹キノ、ガル、コトヲシリテ平生二人ノ面ヲキ(八〇ウ)ラ  
ヒヲソル、癧ツクガユヘナリ。又一ノ方ニ突金ノ上額ノ下ノ毛ギハニ灸ス  
ルコト三炷スベシ。猶イエザレバ両ノ目ノ間廻毛ヲハサミテ灸スルコト三  
炷。又其ノ病ヲモキ者ハ目(八一オ)ノ上口ノ中、領ノ下コハリ腫コトア  
リ。スナハチ鷹ヲフサシメ刀針ヲ以テサキ出ス。口ノハル、ハサイテ後  
子ニテカキヲトスナリ。其ノ色赤ク白ク熊ノ脂ノゴトシ。腎ノ塞ルニモ此  
ノ症ア(八一ウ)リ。療治モコレニ同シ。

治腎塞一方

凡ソ鷹ノイサライ塞ントスルモノ、常ニ食ヲホカラザレトモアキ或ハ全ク

食セス。カクノゴトキハシバシノ間(八二オ)ニ療治トゞカザルコトアリ。  
尾ヲ拳テウゴカシ矢ツキガタク類ノ毛寒ヲチ目ブチ背ト眼ノ間ハル、トキ  
ハ鷹ヲフサシメ紙針ニテスメル胡麻ノ油ヲ孔ニヌル。又鹽ヲツク。(痛少  
キハシホヲツケズ。其後ニ(八二ウ)餌ヲヨクト、ノヘコレヲアタヘヨ。  
鷹シイテヲボヘズ。ウチスルコトアルニウチノ色埴ノ如クカタキコト石ノ  
如クニシテ猶イヘズンバ犀角丸ヲ豆ノ如ニシテ餌ニマゼテコレヲカフヲ第  
一(八三オ)ノ療治トス。ツトメテ此療治ノ方ニ通セバ平愈スルコトヲ得  
ン。モシスデニ病大ニナラバ心ヲ用ユルトモ益ナカラントナリ。

治脚腫一方(八三ウ)

鷹ノ脚ノ腫タルヲ治スルニハ、鷹ヲフセ針ニテ腫ノ上ヲアマネクサシタハ  
シル惡血ヲイダシ銅ノ針ヲヤキアナゴトニ二度三度ツ、コレヲサス。猶イ  
ヘザルコトハ格ノ上ニ久クツナガル(八四オ)、ユヘナリ。世ニナツケテ  
脚腫ト云フ。羅鷹ハ此病マレナリ。巢鷹ニハ此病多シ。格ニヤハラカナル  
物ヲマトイテ鷹ヲツナグベシ。(寒時ハ葦ノ皮ヲ用ヒ暖ナル時ハ鷹ヲ用ル  
類ナリ。)又ハ脚繫ニヒカレテ腫タルニハ初メ腫レノキ(八四ウ)ザス時  
シホヲ酢ニトキテコレヲヌル。今晚ヌリツケバ翌朝ハ洗ヒヲトセ。シカラ  
ザレバ鷹アシヲカミテシホノ毒ニヤブラル、ナリ。

治脚癩一方(八五オ)

脚ノ癩ヲ治スルニハ杏仁十枚スリテ絹ニツ、ミスリツク。二三度ツケタル  
ヲバ新シクトリカエ癩愈マテツクルナリ。

治嚙二腹股毛一方(八五ウ)

鷹腹ノ毛ヲカムニハ巴豆一粒ヲ半分ニワリカタク、ヲ三分ニシ胡麻ノ油一  
合ヲ三分ニワケ其ノ油ニ右ノ巴豆ヲアハセ水銀ヲ粟三粒ホトマゼテコレヲ  
カフ。股ノ毛ヲカムニハ澤葵ノクキ(八六オ)ヲ日ニホシ灰ニヤキテ湯ニ  
テソ、ギ雌黃ト酢トマゼテアラフ。是ハ古キ方ナレトモイマタ証拠ヲ見ズ  
トナリ。

治下嚙中拔羽一方

鷹羽ネヲカミヌクニハ熊胆苦瓜ヲス(八六ウ)リマゼテコレヲヌル。シ

カシナガラ此方モイマタ証拠ヲ見ザルトナリ。

治<sup>スル</sup>瘰癧<sup>カユカリ</sup>方

鷹ノカユガリヲ治スルニハ鷹ヲフセキヨキ水ニテ洗<sup>アラフ</sup>。アラフ人ノ爪ニテモ  
(八七オ) 竹ノヘラニテ毛鷹ノ膚<sup>ハダ</sup>ノ上ヲ血ノ氣<sup>ケ</sup>ノイツルホドカキ其後アタ、  
カナル湯ニテイサギヨクアラヒ水銀膏ヲ手ノヒラニヨキ唾<sup>ツ</sup>ニテトキマゼ無  
名ノ指ニテコレヲスリヌル。又一ノ方ニ酢<sup>セツ</sup>(八七ウ)ニテ雄黄<sup>ヲ</sup>トキ瘰<sup>カユカリ</sup>  
ノトコロニツク。或ハ脚ニツケテワレト脚ヲカムトキ自然<sup>シゼン</sup>ト鷹ノ口<sup>クチ</sup>ニイル  
様ニナス。瘰<sup>カユカリ</sup>ノトコロ見レトモ見ヘザルハ療治ナシヤスシ。或ハ鷹ノ惣身  
瘰<sup>カユカリ</sup>ツキ毛ノウキシツ<sup>ツ</sup>(八八オ)ミニシタガヒカユガリ惣身ニウツリメグ  
ルコトスミヤカニシテトコロヲサダメズチル如クアツマルカ如クナルヲ療  
治ナシカタシトス。此ヤマヒヨ得ルトキ心ヲツケテ治セサレバツイ<sup>ツ</sup>(八八  
ウ)ニ鷹ノ指<sup>ユビ</sup>ヤスルナリ。

治<sup>スル</sup>血痢<sup>ヲ</sup>方

此ノ病ハ何故<sup>ナニユヘ</sup>ニ生スルコトヲシラズ。或人ノ曰ク熱セル肉ヲアタフルユヘ  
ナリト。今ハカリミルニ此<sup>コレ</sup>ノニアラ<sup>ラ</sup>(八九オ)ス。其ノ病体ヲ見ルニシ  
バシノ間ニ外ノ鷹ニウツルコト疫病<sup>ヤクビヤウ</sup>ノ人間ニウツリメグルガゴトシ。此ノ  
病ハ兆<sup>キサス</sup>初メニ生鳥<sup>イケル</sup>ヲイトナミカフテ肥ヘシムベシ。鷹ニハ雉<sup>ツイ</sup>ヲアタフ。鶴  
ニハ鶉<sup>チ</sup>雀<sup>セウ</sup>ヲアタ<sup>ラ</sup>(八九ウ)フ。タゞシ病ノ軽キハ生<sup>イダ</sup>。重キハ終<sup>ツイ</sup>ニ死ス。是  
ヨリ外療治ヲシラズトナリ。

治<sup>スル</sup>被<sup>レタル</sup>犬噬<sup>ニ</sup>鷹<sup>上</sup>執<sup>ヲ</sup>方

是ヲ治スルニハ鷹ヲフセテ先カマレタル疵<sup>キズ</sup>ヲヒラキアラハシキズノ中へ<sup>ニ</sup>  
(九〇オ)イリタル毛ヲ出シ去リテヤキ牛ト鳥ノ脂<sup>アブラ</sup>ヲカキタテ、ツケヌル。  
鷹ニハ牛ト雉<sup>チ</sup>ノアブラヲ用ユ。鶴ニハ鶉<sup>チ</sup>ノアブラヲ用ユ。此病早ク療治ヲ  
加ヘザレバツイニ害<sup>ガイ</sup>ヲイタスナリ。(九〇ウ)

治<sup>スル</sup>肉癥<sup>ニ</sup>方

肉癥<sup>ニ</sup>ノ病ハ常ニト、ノへ養フコトノクハシカラザルユヘナリ。其ノ病初メ  
キザストキ度<sup>タビク</sup>と身ヲフルヒ中ゴロハフルヒヤミ或ハフルハザレトモ噪<sup>サハイ</sup>テ<sup>テ</sup>  
(九一オ)毛ヲミダシ毛ヲサムルコトサダマリナク眸子<sup>マナジリ</sup>ウツトリトシテ遠

キ物ヲ見ル如ク食日<sup>ニ</sup>と減<sup>ゲ</sup>シ次第<sup>ニ</sup>ヤセテ食ヲタチテ死ス。ヒライテ其ノ  
病ノ癥<sup>カユカリ</sup>ヲ見レハ或ハ腫レ腹ノ下ニツキ或ハ<sup>ニ</sup>(九一ウ)五臓ノ中ニアマネク  
或ハ五臓六腑<sup>ニ</sup>コトノクカハキカル。一説ニ腫レ腹ノ下ニツクハタマノ  
イユルコトアリ。小刀ヲ以テハレタルトコロヲヒラキサキ馬ノ尾ニテコレ  
ヲ縫<sup>ヌ</sup>。ヤマヒナキ肉ヲ<sup>ニ</sup>(九二オ)ヲカスコトナカレ。タチドコロニ死スル  
ナリ。羅鷹ハ此病ヲ得ルコト多シ。巢鷹ハ此病マレナリ。古ヨリ今マテ此  
療治ヲシラズ。ヨロシク後ノモノシル人ヲマツベシトナリ。(九二ウ)

治<sup>スル</sup>脚折傷<sup>ヲ</sup>方

鷹ノ脚クジケタルハ楊<sup>ヤチ</sup>ノ木ヲケヅリアミツナギツケ銅ノスリクツヅヲ餌<sup>エ</sup>ニマ  
ゼテコレヲカフ。イマダ証拠ヲコ、ロミズトナリ。(九三オ)

治<sup>スル</sup>内瘰<sup>ニ</sup>方

内瘰<sup>ニ</sup>ハ鷹犬ニカマレ或ハ木ニ突<sup>ツキ</sup>フレテ生スルナリ。背ヨリ上<sup>ウ</sup>領<sup>ネ</sup>ノ下左右ノ  
クボミタル処ヲハサミ灸スルコト二炷<sup>ヒ</sup>。又一ノ方ニ腰ニ灸スルコト毎日二  
(九三ウ)炷<sup>ヒ</sup>。又一ノ方ニ二ノ腋ノ下五臓ノ孔<sup>アナ</sup>各灸スルコト三炷<sup>ヒ</sup>。其ノ後芒  
硝琥珀牛黄龍骨四イロヲ等分<sup>コト</sup>ニシ胡麻ノ油ニテトキ豆ホドニシテ葷<sup>ヨシ</sup>ノ  
管<sup>ツ</sup>ニテ鷹ノ口<sup>クチ</sup>ヘイル。其ノ後二時ハカリニシテ<sup>ニ</sup>(九四オ)食ヲカフヘシ。  
早く食ヲカフベカラズ。或ハ短氣ナラバイタダキノ上ニ灸スルコト三炷<sup>ヒ</sup>。  
是ミナ古来ノ説ニテ試ミザルナリ。スベテ鷹ノ灸穴多シトイヘトモ病症ニ  
カナフコト詳<sup>ツ</sup>ナラス。コノ<sup>ニ</sup>(九四ウ)ユヘニタヤスク灸ノ療治ハイヒガ  
タシトナリ。スベテ艾子<sup>モクサ</sup>小豆子<sup>ハアツキ</sup>ノ大サニナスベシ。鶴<sup>ハ</sup>猶<sup>カ</sup>小サニナスベ  
シトナリ。(九五オ)

享保三年戊戌九月 日

林七三郎信充

林百助信智(九五ウ)

(受理日:二〇一一年三月二日)

